

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1136 2014年11月号

## 農業高校生を対象にした森林環境教育を実施

この森林環境教育は、高知県立高知農業高等学校森林総合科のカリキュラムとして実施しております。【詳細は2頁】



治山工事現場での実習



林道工事現場での実習



## 高校生現場実習

〈農業高校生を対象にした森林環境教育を実施〉

〈治山課・森林整備課・技術普及課〉



四国森林管理局では、高知県立高知農業高等学校森林総合科からの依頼を受けて、今年も森林環境教育を行いました。

この森林環境教育は、森林総合科のカリキュラムとして実施しており、一〇月一〇日に、二年生二一名が高知中部森林管理署管内で治山工事を、一〇月二二日に、三年生一四名が嶺北森林管理署管内で林道工事の現場実習をそれぞれ実施しました。

治山工事では、治山の森

で治山の概要を学習した後、谷留工と、土留工や山腹工の現場へ移動して実物



治山の概要を学習

治山工事現場での説明



の見学をしました。生徒達は、工事の規模などに驚いた様子で、講師の説明に耳を傾け、真剣にメモをとっていました。

また、林道工事では、あいにくの天気でしたが、林道新設工事の測量から施工までの流れについて学習し

ました。このカリキュラムは、授業で学習している最中でもあり、生徒達も熱心に聞き入っていました。

両工事とも、授業で図面や写真だけで学習するのはなく、普段、見る機会の少ない現場や、施設、工器具等を見ることができると同時に、請負事業者から、天候に左右される仕事であることや、安全に一番気を配っていることなど、現場の生の声を聞き、現場での作業の大変さも痛感したようでした。

今後とも、四国森林管理局では、林業を専門に学んでいる高校生の学習支援に取り組んでいきます。

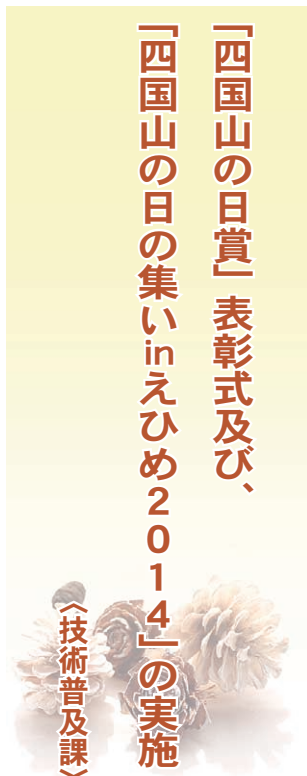
林道工事現場での説明



林道工事現場見学







一〇月七日に、平成二六年度「四国山の日賞」の表彰式を四国森林管理局において実施しました。

四国山の日賞は、平成一六年に四国四県と四国森林管理局が行った、「四国の森づくりに関する共同宣言」の趣旨に沿った取組を積極的に推進している団体等を表彰するものです。その取組を広く紹介すること、四国山の日PRを図るため、平成一八年度から実施しており、今回で九回目となります。

局長室で行った表彰式に

続き、各受賞団体の代表者を交えた昼食懇談会では、お互いの活動状況等の情報交換を行うなど親交を深めました。

その後、高知市仁井田の木材市場や、木質バイオマス発電施設の見学等を行い、最新の情報を得ることができました。

今回、「四国山の日賞」を受賞された団体は以下の六団体です。

- 森林整備部門
- ・新谷公益会（愛媛県）
- ・東かがわ市北山森林ボ



四国山の日賞受賞者の皆様浅川局長を囲んで

○木材利用部門

- ・四万十町森林組合大正集成材工場（高知県）

○森林環境教育部門

- ・香美市立大桁中学校（高知県）
- ・愛媛木材青年協議会（愛媛県）
- ・もっこり倶楽部（徳島県）

ランティア会（香川県）

木材市見学



木質バイオマス発電施設見学

また、今年からは、これまで「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施してきたイベントが見直され、四国の森づくりネットワーク主催（四国森林管理局・四国四県後援）のイベントとして「四国山の日集いinえひめ2014」（一〇月二二日～二三日）が愛媛県松山市で実施されました。

当日は、台風の接近により開催が危ぶまれましたが、四国各地域において、森づくり活動を実施しているランティア団体を中心に当局及び四国各県からの参加者を含め多数参加するなか開会式が行われました。

また、基調講演では、四

国森づくりネットワーク会  
長から「四国山の日・四国  
の森づくりネットワーク・  
森づくり安全技術・技能地  
域推進協議会の歩み」と題  
した講演がありました。

その後、二つの分科会  
に分かれ、参加した分科



四国山の日集い  
inえひめ2014

会では、「広島山の日県民  
状況の説明があり、参加  
の集いの取組」、「ボラン  
ティアの支援」、「四国山  
の日をデザインする」を  
テーマとして、各講師か  
ら、それぞれの取り組み

**「第一〇回高知もくもくランド  
2014秋まつりin中央公園」開催**  
〔技術普及課〕

秋も深まった一〇月二五  
日〜二六日に「木育からは  
じまる家族の笑顔」をメイ  
ンテーマに、大人から子供  
まで楽しみながら木材や木  
製品への理解を深め、木材  
消費拡大を目指す取り組み  
として、「第一〇回高知も  
くもくランド2014秋ま

つりin中央公園」が高知市  
中央公園で開催されまし  
た。  
オープニングセレモニー  
では、浅川局長からの来賓  
挨拶のあと、ノコギリを手  
にしてのテープカットなら  
ぬ丸太カットで幕を開け、  
恒例のもち投げでは、黒山

浅川局長あいさつ



のような人集りができ、餅  
が飛ぶ度に大きな歓声が聞  
かれました。

イベントには、木材の利  
用推進を図るため、木製品  
の関係企業等が多数参加し  
ており、二日間を通じて、  
推定二五、〇〇〇人の人々  
が会場を訪れました。

当局としても、木材利用  
推進を図ることの意義及び

重要性について、また、平  
成二六年度「四国山の日  
賞」受賞団体の活動状況等  
を紹介したパネル展示を行  
うとともに、四国の国有林  
の取り組みを紹介した冊子  
等を配布するなど、一般の  
方々に広く紹介することが  
でき、大きなPR効果に繋  
がりました。



丸太カット



今後においても、このよ  
うなイベントに積極的に参  
加するなど、森林・林業の  
活性化に向けた、当局の取  
り組み等を広く紹介し一層

のPR等に努めることで、  
森林・林業の重要性など理  
解の醸成に努めて参りま  
す。

## 「伊予之二名島古事の森」森づくり活動

〈技術普及課〉



「伊予之二名島古事の森」

の森づくり活動を一〇月  
一八日に愛媛県久万高原町  
のサル谷山国有林（石鎚山  
系の中腹）で実施しました。

この「古事の森」森づく  
り活動は、「伊予之二名島  
古事の森育成協議会」との  
協定に基づき、松山城や道

後温泉本館など木の文化を

象徴する伝統的な木造建築

物の修復材を安定的に供給  
するために、平成一九年度  
から行われている夢とロマ  
ンにあふれた取り組みで

す。八回目となった今年は、  
一般公募による参加者一〇  
名を含む総勢一四名での実  
施となりました。

まず、育成協議会会長の

愛媛大学江崎名誉教授か  
ら、「伝統的な木造建築物  
の定期的な修復に必要な資  
材を安定的に供給するため  
の取組であり、本日行う森  
林整備は、私たちの孫やひ  
孫に役立つ有意義な作業で  
す。」との挨拶があり、作  
業に取りかかりました。

今回は、主に植生保護管



森づくり活動に参加された皆様

（ヘキサチューブ）の取り  
外しと、倒れてしまった植  
栽木を起こす作業を行いま  
した。

参加者の中には第一回目  
から参加されている方もあ  
り、当時を懐かしむ声も聞  
かれました。

今後も、「古事の森」森  
づくり活動を通じて伝統的  
木造建築物と森林の関わり  
合いへの理解の醸成が図ら  
れるよう、愛媛森林管理署

等と連携しながら、森林整  
備等に取り組んでいくこと  
としています。

## 平成二六年度森林総合監理士育成研修事業 「実践研修（現地検討）四国ブロック」開催

〈技術普及課、森林技術・支援センター〉



平成二三年度から三年間  
なりました。

実施してきました「准フォ  
レスター研修」に代わり、  
平成二六年度より「技術者  
育成研修（中央研修及びブ  
ロック研修）」及び「実践

研修」が実施されることと

過日、九月二十九日から四  
日間の日程で実施されま  
した「技術者育成研修（四  
国ブロック）」に引き続き、  
一〇月二七日～二八日まで

の二日間の日程で「実践研

修（現地検討）四国ブロック」を実施しました。

当研修は、地域の特性等を踏まえ、地域の森林・林業の再生に向けた課題を設定し、現地検討・討議を通じて、課題の背景と解決策等を共有することを目的として、全国七ブロックで研修を実施するものです。

研修の実施に当たっては、事業者や団体職員等の外部講師の方々のご協力を頂き、「新たな架線系作業システムへの取組と最新の木材利用・流通」をテーマとして、四国局管内特有の急峻な地形に応じた効率的な架線集材システムや、大型製材工場の木材利用・流通事情等を踏まえた、地域

における木材の安定供給に  
ついて、実践的な指導・助  
言ができるようになること  
を目標として、現地検討・  
意見交換を行いました。

研修には、これまでの准  
フォレスター研修受講者も  
含め、希望者を募ったこと  
ろ、四国四県はもとより、  
遠くは奈良県、和歌山県か  
らの参加者もあり、総勢  
二六名（県職員一八名、市  
町村職員一名、国有林職員  
七名）を対象に、局二階大

会議室においてスタートし  
ました。



開講式【井上業務管理官（次長）】

タワーヤード  
（川井木材事業現場）



討し発表を行い一日目を終  
了しました。

二日目は、午前中、①「川  
下の要求（マーケットニー  
ズ）」と対応の方向」につ  
いて（鶴園森林整備部長）、

②「地域の特性に合った木  
材流通等について」（高知  
県森連相良副参事）、③「大  
型製材工場の現状と課題」  
（高知おおとよ製材（株）  
岡田工場長）の講義を受け、  
研修生は、フォレスターに  
とって、常に広い視点から  
全体を意識して行動するこ  
とが重要であること等への  
理解を更に深めました。

開講式における、井上業  
務管理官からの激励の挨拶  
の後、早速、高知県本山町  
上関（民有林）において、  
外国製タワーヤードと自走  
式搬器を利用した新作業シ  
ステムで木材搬出事業を展  
開している（有）川井木材  
の事業現場へ向かい、川井  
営業部長及び高知県立森林  
技術センター山崎チーフか  
ら説明を受けました。

研修生は、最新の林業機  
械に大いに興味を示し、多  
くの質問がなされ、活発な  
意見交換が行われました。

その後、高知市の研修会  
場へ帰り、各班毎に「シス  
テムを選択した理由」を検



自走式搬器  
（川井木材事業現場）

午後からは、高知県大豊  
町内にある高知おおとよ  
製材工場の見学を行いました。



高知おとよ製材工場見学



研修生は、工場の規模の大きさに驚くとともに、より効率性を求めたシステムと需要に応じた安定した製品づくりに感銘を受けた様子でした。

最後の研修のコマは、大豊町役場の会議室を研修会場として、各班毎に「今後、フォレストラーとしてやってみたいこと」をテーマとし

た発表を行い、講師等からは発表内容に対する助言と激励のコメントが行われました。

閉講式では、鶴園森林整備部長から、将来のフォレストラーへエールを込めた閉講の挨拶があり、続いて集合写真を撮影して二日間の



「フォレストラーとしてやってみたいこと」発表

研修を無事に終了しました。

二日間の研修カリキュラムとしては、盛りだくさんな内容となり、検討時間の短さを指摘されたものの、実際に現場を目の当たりに



実践研修の研修生及び講師の皆様  
(前列左から三人目鶴園森林整備部長)

することで、研修に格段の説得力が加わり、研修生からはとても充実した研修であったとの好評を得ることができました。

今後においても、地域に貢献できる人材の育成を図るため、更なる研修の充実を図り、将来に繋げて行くこととします。

「森林のおくりもの」で間伐疑似体験

〈技術普及課、森林技術・支援センター〉



一〇月七日、高知県森林研修センター情報交流館において、南国市立長岡小学校の五年生一五名を対象とした森林教室を行いました。

伐体験を森林管理局で指導していただきとの要請を受け、実施したものです。

森林教室の実施に当たっては、まず、間伐が重要な

仕事だと言うことを説明し

今回の森林教室(間伐疑似体験)は、情報交流館から長岡小学校の森林学習を行うにあたり、間

後、間伐の方法について、森林技術・支援センターより実演とともに、安全指導

間伐の実演中



等をしてもらい、一連の流れを理解した上で、五班に分かれて子ども達が実際に間伐を体験しました。

間伐体験といっても、山の中で実際の木を伐るのでなく、丸太を立木に見たてた情報交流館お手製の間伐木を敷地内に設置し、伐

倒方向の目標として風船を置き、割れば成功。という少しゲーム感覚を取り入れた方法で行いました。

ほとんどの児童が、ノコギリを使用したことがなく、最初は力任せに曳いたり、先だけで曳いたりして、すぐに疲れて別の子に交代するなど、時間がかかっていましたが、コツをつかんだ児童が奮闘してくれて、見事にどの班も目標の風船に当てることが出来ました。(残念ながら、音をたてて割れたのは一班だけでした。)どの班も、「もう少し!がんばれ!」「誰が倒す?」と励まし、協力し合いつながりながら、頑張っていました。

まずは、木を倒す方向の受け口を伐る



間伐体験後は、汗が光る笑顔で「疲れたけど、楽しかった。」「もっとやりたかった。」といった声が聞かれました。

「間伐は大変疲れる仕事ですが、このようにして山の手入れをしている人がいます。また、興味があれば、実際に山での間伐体験をし

てみて欲しい。」という旨の話をして間伐体験を終りました。

これからも、情報交流館等とさまざまな連携を図り、お互いによりよい森林環境教育が行えるように協力関係を築いていきたいと考えています。

## 鳶ヶ池中学校で森林教室

〈技術普及課〉

一〇月三十一日、高知県南国市立鳶ヶ池中学校の一年生五八名を対象に森林教室を行いました。

今回の森林教室は、「水を通して森林と私たちのつながりを考える」をテーマにして実施しました。

同校では、毎年この時期に一年生が学校林活動を通じて、「学校林の歴史」「森林の働きや役割」「森で遊ぶ」を体験していますが、今回はあいにくの空模様のため、体育館で川に関するクイズを行い、川の水の「ふるさと」は森林であり、森林の土は、雨水を地中に



蓄えておく「緑のダム」で  
あることなど、森林の働き  
について学習しました。  
て良くわかる実験でした。」  
との感想をいただきました。

次に校庭に出て、パネル  
を使って、森林のある山と  
森林のない山との雨のゆく  
えの違いを説明しました。  
その後、水の浸透実験装置  
を使って、森林の保水能力  
と水の浄化作用等につい  
て学びました。

装置にセットし  
た校庭の土と森  
林の土それぞれ  
に生徒が水を注  
ぎ、そこから出  
てくる水の流れ  
方や濁り方の違  
いに、生徒や先  
生から「目で見  
て実際に体験し



水の浸透実験装置を使つての実験

各地のたより



一〇月一〇日、徳島市上  
八万小学校において一年  
生、四一七名を対象とした  
森林教室及び動物等のマス  
コット製作を行いました。  
上八万小学校では毎年、  
近隣の保育所園児にプレ  
ゼントを贈る等のイベント  
行つていて、今年は木工マ  
スコットを贈りたいと依頼  
されたことから、当教室を  
実施することとなりました。  
まず身近な自然の話で

は、ニホンジカが増え過ぎ  
ていて食べ物がなくなり、  
山の木の皮がたくさん剥が  
され食べられていること  
について、実際に山から採  
ってきた丸太の樹皮を見せ  
クイズに答えてもらいまし  
た。子ども達はとても驚い  
た様子でした。また近年、  
集中豪雨や気象災害が多発  
していることについて聞い  
てみたところ、ほとんどの  
子ども達がニュース等で  
知つていて、関心の高いこ  
とがわかりました。地球が  
暖かくなつていることが原  
因の一つと言われているこ  
とを説明し、木を使うこと

森林教室の様子



は地球を助ける一つの方法  
であることを話しました。  
その後、徳島県で採れた  
カシやサクラ材、ドングリ  
を使用したクマやカブトム  
シなどの動物マスコットを  
製作しました。子ども達は  
プレゼント用のマスコット



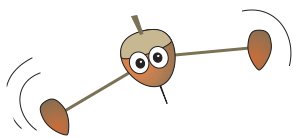
を丁寧に作り上げ、その後自分用にも作っていました。作りあげた作品には皆とても満足している様子でした。最後には全員が、「製作したマスコットを大切に飾ります」と言ってくれました。

近頃は自然や木材に触れる機会はとてまもなくなくなりましたが、実際に体験してみると、子ども達も木の暖かさや自然の大切さを感じてくれることに、改めて気づかされました。森林教室や木工クラブ等を通じて、より多くの子ども達に楽しく学習してもらえよう、私達も勉強していきたいと感じました。地域や学校等の要望に応えつつ、

今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。



贈り物のマスコット作りに、皆、夢中で作製中



一〇月一八日・一九日に徳島市藍場町の藍場浜公園において、「山と木と緑のフェア二〇一四」が開催されました。当フェアでは徳島県内の各林業関係団体をはじめ、三好高校や徳島科学技術高校による出展もあり毎年多数のお客さんで賑わいます。

当署も毎年出展しており、今年は、事業概要や風景写真等をまとめたパネル展示やマイ箸



丸太切りテープカット  
(右から3人目、原徳島森林管理署長)

づくり、丸太切りコースター&キーホルダーづくり、コマづくりを行いました。始めに、実行委員長からの挨拶、続いて、徳島県副知事、徳島森林管理署長等来賓による恒例の丸太切りテープカットイベントの開始です。

当署のブースにはたくさん親子連れが集まり、楽しんでいました。子ども達も達もいて、悪戦苦闘しながら切り終えた後には充実した笑顔を見せていました。それぞれの作品を作り上げた参加者は皆満足した様子でブースを後にしていました。

当イベントは、木に触れてもらう機会づくりに

はじめに、実行委員長からの挨拶、続いて、徳島県副知事、徳島森林管理署長等来賓による恒例の丸太切りテープカットイベントの開始です。

当署のブースにはたくさん親子連れが集まり、楽しんでいました。子ども達も達もいて、悪戦苦闘しながら切り終えた後には充実した笑顔を見せていました。それぞれの作品を作り上げた参加者は皆満足した様子でブースを後にしていました。

当イベントは、木に触れてもらう機会づくりに



コマ作り、沢山の人で賑わいました。(コマうまく回るかな?)



とどまらず、徳島森林管理署の取組を知ってもらったり、また幼稚園等の先生から森林環境教育の依頼を受けたりするなど、情報発信、交流の場を広げることもつながっています。今後もこの様な機会を継続して行う必要があると感じました。



一〇月二四日、奈半利町立奈半利小学校六年生二〇名、保護者一五名、教員二名を対象に野根山街道散策を実施しました。

この行事は、「自然に親しむ体験」と「地域の歴史学習」を目的に、三〇年以上前から実施されています。野根山街道は、高知県奈半利町から東洋町を尾根伝いに結



「着いたー！」(宿屋杉の前で)

ぶ山道で、一、二二一年の承久の乱にて流刑となった土御門上皇が通られ、また藩政時代には参勤交代の通路、幕末には中岡慎太郎などの志士脱藩の道になるなど多くの歴史を刻んで来た古道です。今回は台風一一号の影響で、林道が通行できなく

なったため、米ヶ岡から宿屋杉の往復約一三kmのコースとなりました。まず出発式で当署職員の紹介と、歩行時や森の中の注意事項などを説明した後、二班に分かれて宿屋杉をめざし散策を開始しました。当日は雲ひとつない澄んだ秋空の登山日和で、みんな元氣よく出発しました。須川林道から塚ノ塔までの約一時間半は、急な登りが続く歩道で「疲れた。休憩はまだなの。」など弱音を吐きながらも元氣に歩いて行きました。途中、鳥の鳴き声が聞こえた場所で、バードコールを鳴らすと鳥が姿を見せた

り、動物が汚れを落とすために泥を浴びる沼田場ではニホンジカやイノシシの足跡を見つけ、動物を身近に感じられたのではないかと思います。街道散策では、史跡の名前の由来や妖怪伝説、代表的な樹木の特徴を聞きながら、自分達の住む地域のことを学習してもらいました。下山後、感想を聞いたところ「今年は登りが多く、とてもしんどかった」との声も聞かれましたが、一人のリタイヤを出す事も無く無事に終了する事ができました。野根山街道散策を通じて、子ども達は普段触れる



事のない樹木や野鳥を観察  
することで、より身近に自  
然を感じられたようでした。  
当署としても未来ある  
子ども達に森林づくりや自  
然環境の大切さ、国有林が  
行っている取組み等の理解  
が深まるよう、今後もこの  
野根山街道散策を続けてい  
きたいと考えています。



これ何かな？（散策）



一〇月二六日、高知県馬  
路村魚梁瀬で毎年開催され  
ている魚梁瀬地区村民運動  
会に安芸森林管理署チーム  
として、署職員、魚梁瀬合  
同森林事務所職員及びその  
家族が参加しました。運動  
会は魚梁瀬地区のイベント  
であり、晴天のもと、安芸  
署チーム以外にも馬路村農  
協チーム、丸山地区・魚梁  
瀬小中学校チーム、全日本  
選抜チームが参加しました。  
午前中の競技では、どこ  
に跳ねるか分からないラグ  
ビーボールを地面にバウン

ドさせ、背中のカゴに入れ  
る「実りの秋」など、大変  
難しい競技にどのチームも  
苦戦しながら、互角の戦い  
になりました。昼休みには、  
各チーム独自の応援合戦で  
盛り上がり、安芸署チーム  
も即興で踊りを披露して会  
場を沸かせるなど。パフォー  
マンスに皆の笑い声が魚梁  
瀬の山々に木霊していまし  
た。午後からは、丸太を伐つ  
てリレーする「ザ・山師」  
という私たちにとって有利  
な競技で、ベテラン職員の  
腕の見せ所となりました。  
終盤には、他のチームも  
実力を発揮し、徐々に点  
差が開きはじまりました。最  
終種目のベストメンバーに  
よるリレーでは、スタート

楽しい、玉入れ



時点の四位から皆  
が全力をぶつけ二  
位まで追い上げま  
したが及ばず、有  
終の美を飾ること  
はできませんでし  
た。総合成績では  
三位という結果で  
したが全チーム怪  
我もなく、魚梁瀬  
地区の方々と交流  
を深めることが出  
来ました。

丸太切り  
（これだけは、負けられません）

